

# 第1章

## 家庭・学校・地域社会へのメッセージ

手を携えて、共に子どもをはぐくんでいきましょう

### 家庭

#### 子どもに寄り添い、あたたかな場に

- 伸びやかな心が育つよう、安全で安心な環境をつくりましょう
- 明るい心が育つよう、規律ある生活習慣を身に付けさせましょう
- 豊かな心が育つよう、食事の場を大切にし、心の交流を図りましょう

### 学校

#### 子どもの生きる力が育つ学びの場に

- 確かな学びの定着を図り、家庭と連携して夢や希望を育てましょう
- 道徳教育の充実を図り、自己の生き方について考えを深めさせましょう
- 集団の中での学びを通して、人間関係を豊かに築く力を育てましょう

### 地域社会

#### 子どもを育む「連携と協働」の場に

- 地域の行事や活動を通して、社会の一員としての意識を育てましょう
- 地域総がかりで、子どもを取り巻く環境の健全化を進めましょう



### ○ 伸びやかな心が育つよう、安全で安心な環境をつくりましょう

安全で安心して生活できる環境は、伸びやかに成長する上で大切な基盤です。そこでよりよく生きていこうとする意欲や態度が育ちます。

### ○ 明るい心が育つよう、規律ある生活習慣を身に付けさせましょう

食事・起床・就寝などの規則正しい生活習慣や規律ある社会態度を身に付ける過程で、明るく、困難にくじけない強い心が育っていきます。

### ○ 豊かな心が育つよう、食事の場を大切にし、心の交流を図りましょう

家庭には、愛情のこもった心の交流の機会があります。食事の場などを使って、声をかけ合い語り合うことで明るく生き生きとした心が育ちます。

### ○ 確かな学びの定着を図り，家庭と連携して夢や希望を育てましょう

確かな学びは夢や希望を育て，自己実現の喜びを生み出します。学校が情報を発信し，家庭と連携することで，子どもの生きる意欲が育ちます。

### ○ 道徳教育の充実を図り，自己の生き方について考えを深めさせましょう

子どもたちには自らを律し，集団のルールを守ることが求められます。厳しさと温かさを持って接することで，子どもの豊かな人間性が育ちます。

### ○ 集団の中での学びを通して，人間関係を豊かに築く力を育てましょう

人と人とのつながりは，共に活動することによって深めることができます。他との交流をすすめることで，子どものコミュニケーション能力が育ちます。

#### ○ 地域の行事や活動を通して、社会の一員としての意識を育てましょう

ボランティア活動をはじめとする豊かな体験は、子どもたちの社会参加への意欲や関心を向上させ、地域社会の一員であるとの意識を育みます。

#### ○ 地域総がかりで、子どもを取り巻く環境の健全化を進めましょう

大人たちによる、子どもの健やかな成長を願う取組の広がりや深まりは、地域社会の教育力を向上させます。

【メッセージ1 **家庭へ** の背景となる主な分析結果】

- ◇ 反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒の割合は、「家庭を楽しんでいる」と回答した群が、「家庭を楽しんでいない」と回答した群よりもすべての項目において高い。 P15
- ◇ 反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒の割合は、「あいさつをする」と回答した群が、「あいさつしない」と回答した群よりも、すべての項目において高い。 P18
- ◇ 反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒の割合は、「朝食を食べる」と回答した群が、「朝食を食べない」と回答した群よりも、すべての項目において高い。 P21
- ◇ 夕食を「誰かと食べる」と回答した群の児童生徒は、家庭を「楽しい」と回答した割合が高い。 P22
- ◇ 平成14年度との比較において、「交通安全など自分の身を守ること」について保護者が「注意する」割合が増えており、全項目の中で最も高くなっている。 P26
- ◇ 家の人のすばらしさを「認めている」群の児童生徒は、「認めていない」群と比べて、「ほめる、認める」「しかる」「相談相手になる」「家族で楽しむ」等、積極的な関わりに対する要望が多い。 P33
- ◇ 「何でも話せる人が家族にいる」児童生徒は、「家族にいない」者より、「家庭を楽しんでいる」と回答した割合が高い。 P52

【メッセージ2 **学校へ** の背景となる主な分析結果】

- ◇ 「家庭と塾とを合わせた学習時間」は、平成14年度と比較すると、小5・中2の学習時間は増加し、高校生は減少傾向にある。 P24
  
- ◇ 中2・高2ともに学習時間が少ない生徒ほど「その日その日を楽しく生きる」と回答している割合が高い。また、中2・高2ともに学習時間の多少によって「生き方に対する考え方」の差異が見られる。 P24
  
- ◇ 「学校生活満足の理由」に関して、全校種ともに回答の割合が最も高いのが、「友だちがいる」である。次いで、小5・中2では「学校行事が楽しい」、高2では「部活動が楽しい」となっている。 P39
  
- ◇ 「先生にめぐまれている（いい先生がいる）」と回答した群の児童生徒は、選択していない群よりも、「友だちの行為に関する感じ方」「授業中の行為に対する感じ方」のそれぞれについて、「いやな感じ」「悪いと思う」と回答した割合がすべての項目において高い。 P40
  
- ◇ 学校の役割として、教員・保護者とも「集団のルールを身に付けさせる」「学力を身に付けさせる」「人間関係を築く力を身に付けさせる」という項目が共通して上位3位を占めた。 P45
  
- ◇ 「友達の行為に対する善悪の判断」で、「悪い」と回答した児童生徒の割合は、ほとんどの項目で学年が上がるほど低くなる。他人に直接的に重大な害を及ぼす行為については、すべての校種で「悪い」と回答した割合が高い。 P73
  
- ◇ 「現在の青少年の憂慮すべき点」に関して、教員・保護者の合計で回答の割合が最も高いのは、「自己中心的」であり、次いで「忍耐力がない」「思いやる心が乏しい」の順である。 P101

【メッセージ3 **地域社会へ** の背景となる主な分析結果】

- ◇ 「老人ホームや病院などへの訪問」「障害のある人への支援や保育などの活動」に関して、学校行事や町内会などの地域の活動として参加した児童生徒が増加している。 P84
  
- ◇ ボランティア活動への参加経験のある児童生徒は、参加経験のない児童生徒よりも関心が高い傾向にある。 P88
  
- ◇ 「ボランティアへの関心の理由」に関して、全児童生徒で回答の割合が最も高いのは「困っている人の手助けをしたいから」であり、次いで「地域や社会をよくしたいから」である。 P89
  
- ◇ 「地域の子どもへの接し方」に関して、教員・保護者の合計で回答の割合が最も高いのは、「道であったとき声をかけたり、あいさつをしたりする」であり、次いで「悪いことをしていることに気づいたとき、注意したり、叱ったりしている」「子ども会などで一緒に地域の活動をしている」の順である。 P97
  
- ◇ 「地域の問題」に関して、教員・保護者の合計で回答の割合が最も高いのは、「よその子どもをしからなくなった」であり、次いで「地域の人と接する機会が少なくなった」「隣近所のことに関心な人が増えた」の順である。 P99
  
- ◇ 「望ましい成長発達を支える取組」に関して、教員・保護者の合計で回答の割合が最も高いのは、「家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発」であり、次いで「人間関係を築く力を充実させる活動の推進」「地域での青少年の居場所づくり」「学校での道徳教育の充実」の順である。 P103